

10月3、4日に6年生が修学旅行に行きました。佐世保方面に一泊二日です。今回、「仲間と一緒に協力する」力や「自分たちで考えて行動する」力を付ける目的で、三つの班に分かれて活動しました。班編成は、子どもたちの力がそれぞれ発揮できるように6年担任の先生たちが考えました。全員でまとまって行動すると教員の目が届きやすく、何か起こったときにすぐに連携できる体制がとれるので安全ですが、班に分かれて行動することはそれができなくなるという大きなリスクがありました。けれど、子どもたちの可能性を信じ、「**できる力を最大限に伸ばす**」という6年生担任の熱い思いを実現させることにしました。結果、子どもたちは自分たちで考え、仲間と協力しながら行動することができました。最後、長崎駅に着いたときのみんなの顔は「**自信**」と「**達成感**」に満ち溢れていました。それと同時に、6年生の先生たちの顔には全員無事に戻ってこれたという安堵感と、子どもたちと同じ達成感が見られました。「やっぱり子どもたちはやってくれた!」「子どもたちを信じてよかった!」と、教師として最高のお土産をもらったようでした。5年生、4年生、3年生、2年生、1年生の皆さんも「可能性は無量大」です。さあ、6年生に続いて、可能性を伸ばしていきましょう!





## 『コトノハ』コラム

あるネットの記事を読んでいると、「伝える」は、自分から相手に対して、一方的に内容を伝達する行いだそうです。一生懸命に話したとしても、ただ自分が話しているだけで、相手に届いていない場合もあります。一方「伝わる」は、相手の目線や立場を理解しつつ、双方向でコミュニケーションを取る行いの事だそうです。私たち教師はよく「〇〇と伝えました」と言いますが、ただ一方的に「伝える」ではなく、子どもたちの目線や表情を読み取り、子どもたちとコミュニケーションを取りながら、私たちの言葉が『伝わる』ように、日々関わっていきたいと思います。